

国際標準番号システムにおける識別要素の検討

菅野育子（愛知淑徳大学文学部）

isugano@asu.aasa.ac.jp

1 国際標準番号システムの多様化

これまで国際規格として制定された番号制度の中で、特に情報流通のための番号制度として、ISBN[1]、ISSN[2]、ISMN[3]、ISRN[4]、ISRC[5]をあげることができる。これらの番号を実際に付与するためのシステム（国際標準番号システム）は、番号制度ごとに管理維持機関によって構築されている。その中でも各番号に伴って記録される識別要素のほとんどは、目録規則における書誌記述のための書誌要素と類似したものである。しかし、先の ISRC（国際標準レコーディングコード）の識別要素は、残りの4つの番号システムとは異なっている。なぜなら ISRC は、録音された楽曲ごとに番号が付与される録音内容そのものを識別するための番号であり、他の番号システムは物理的に存在する資料の識別番号であるためである。このように番号付与の対象や各規格の適用範囲、そして規格関連機関によって、各番号制度が識別しようとする対象に関する情報が多様化している。さらに先の5つの番号制度につづいて、規格化されつつある ISAN[6]、ISWC[7]、ISTC[8]は、これまでの資料を識別するための番号制度とは大きく異なるものであり、番号制度全体の見直しが必要となっている[9][10]。

本研究は、上記8つの国際標準番号システムの識別要素を詳しく分析することから、各番号制度の役割を明らかにし、情報流通における識別機能を果たすための番号システムのあり方を検討することを目的とする。

2 国際標準番号システムの分析

2.1 調査目的と方法

上記の8つの番号制度[1]-[8]を対象に、国際規格の本文から、番号制度が識別しようとする対象と規格の適用範囲を分析する。規格の附属書からは、番号システムで規定されている識別要素を分析する。その分析をとおして、識別要素の内容から各番号制度の識別範囲を明らかにする。

2.2 調査結果

2.2.1 識別対象

ISBN は、図書(Book)あるいは「その他の単行書」を識別対象とし、その他の単行書と定義されているものの中には、教育用の映画/ビデオ/スライド、カセット・テープ、コンピュータ・ソフトウェア、電子文献、マイクロ資料、点字資料、地図が含まれている。ISSN は、刊行終了を意図しない逐次刊行物で通常通し番号や年代表示があるものであれば、あらゆる媒体が対象とされている。ISMN は、冊子体の楽譜のみを対象としている。ISRN は、テクニカル・レポートを対象とし、媒体は問わない。

ISRC は、音声記録内容、あるいは音声画像同時記録内容そのものを対象としており、記録したものを運搬する容器(carrier)を対象としてはいない。ISAN は、画像記録内容、あるいは音声を伴う画像記録内容を対象としている。ISWC は、楽曲そのものを対象としており、ISTC は、文章によって表現され得る作品そのものを対象としている。

以上のように、物理的に存在する資料から、ある形をもたなければ見ることも聞くこともできない作品や芸術的な創作そのものまで、識別対象は多様である。しかし、音楽についてまとめてみると、楽曲自体に ISWC が付与され、それが録音されると ISRC が付与され、楽曲が楽譜に記録されれば ISMN が付与される。また、ある文学作品が作家によって創作されれば ISTC が付与され、その内容がビデオ化されれば ISAN が付与され、その内容が図書となって出版されれば ISBN が付与されるのである。各番号制度は独立ではなく、連携をとることが必要になってきている。

2.2.2 国際標準番号システムの識別要素

各番号システムで規定されている識別要素は、各番号制度（国際規格）を実際に用いる機関が必要としている情報から構成されているものである。しかし、他の番号システムの識別要素と組み合わせることで、もともとの作品を生み出した著者やその時点でのタイトルから始まって、その作品が最終的にどのような媒体を伴って資料となったのかまでが明らかになるといえる。番号制度に関係する機関を横断して、識別対象は変わり、識別要素も変わるが、それらを一貫してみる必要があるであろう。

3 IFLA『書誌的記録の機能要件』における Entities

各番号制度を横断して 識別対象と識別要素を整理するための枠組みとして、IFLA の『書誌的記録の機能要件』[11]を利用した。IFLA は国際レベルの目録の理論と実践の再検討を目的とした研究プログラムを終え、その最終報告書を1997年に刊行した[12]。このプログラムの目的は、メディアの多様化、書誌レコードの活用方法の多様化、書誌レコードに対する利用者ニーズの多様化に則しながら、書誌レコードが果たす機能について検討することであった。その結果として、書誌データの利用者にとって重要な手がかりとなる"entities"[11]を提案している。その中でも、entities の第1グループとして提案された 著作(Work)、表出物(Expression)、具象化物(Manifestation)、対象物(Item)は興味深い。このグループは、書誌レコードに記述すべき「知的芸術的活動の成果」に関する情報として見ることができる。著作(Work)は、厳密な意味での知的芸術的創造物を意味し、表出物(Expression)は著作(Work)を何らかの形式で表現したものを意味する。具象化物(Manifestation)は、何らかの形式で表現された知的芸術的創造物をさらに形あるものに具体化したものを意味している。最後の Item は、書誌レコードを作成する時に実際に対象とする物で、具象化物(Manifestation)の一例を意味している。例えば、A という作家が頭の中で B と

いう著作(Work)を考え、それを日本語で書き下ろしたテキストが表出物(Expression)であり、さらに図書として出版されたものが具象化物(Manifestation)となり、その出版された図書の中で書誌レコードを作成するために利用されたものだけが対象物(Item)となる。さらに entities の第2グループである Person あるいは Corporate Body は、著作(Work)を創造した人(機関)、表出物(Expression)を実現した人(機関)、具象化物(Manifestation)を生産した人(機関)、Item を入手した人(機関) 意味し、例えば順に、著者、翻訳家、出版者、抄録・索引機関となる。

4 国際標準番号制度の識別範囲

『書誌的記録の機能要件』の考え方をこれまで検討してきた国際番号システムの識別要素に当てはめてみることにした(配布資料 参照)。ただし、Item については書誌レコードの対象物としての設定であるため、ここでの議論からは除くことにした。

図書、雑誌、テクニカル・レポート、楽譜という物理的存在が前提となっている番号システムは、具象化物(Manifestation)を識別するものであり、ISAN は表出物(Expression)を識別し、ISRC は録音物として具体化されていることが前提であるため具象化物(Manifestation)と表出物(Expression)を識別していることになる。そして、ISWC と ISTC はそのタイトルどおり著作(Work)を識別している。

各番号制度が何を識別しようとしていたかが明らかとなったが、各番号システムをリンクすることで識別要素間にも関連を付けることができ、ある著作から資料までを一貫して識別することが可能となると考えられる。多様化する国際識別番号制度を全体的に見直し、識別のための情報を一括して扱う番号システムの構築が必要となろう。

< 引用文献 >

[1]ISBN (国際標準図書番号)

ISO2108:1992 Information and Documentation - International Standard Book Numbering(ISBN)

[2]ISSN (国際標準逐次刊行物番号)

ISO3297:1998 Information and Documentation - International Standard Serial Number(ISSN)

[3]ISMN (国際標準楽譜番号)

ISO10957:1993 Information and Documentation-International Standard Music Number(ISMN)

[4]ISRN (国際標準テクニカルレポート番号)

ISO10444:1994 Information and Documentation - International Standard Technical Report Number(ISRN)

[5]ISRC (国際標準レコーディングコード)

ISO3901:1986 Information and Documentation - International Standard Recording Code(ISRC)

[6]ISAN (国際標準視聴覚作品番号)

ISO/DIS 15706 Information and Documentation - International Standard Audiovisual

Number(ISAN)

[7]ISWC (国際標準音楽著作物コード)

ISO/DIS 15707 Information and Documentation - International Standard Work Code(ISRC)

[8]ISTC (国際標準著作物コード)

ISO Project 21047(ISTC) Working Draft Version 1.0 Information and Documentation - International Standard Textual Code(ISTC)

[9]菅野育子. 文献識別番号の検討: 国際標準番号制度を中心に. 1997年度三田図書館・情報学会研究大会発表論文集. 東京, 1997, p.53-56.

[10]菅野育子. 文献識別の範囲と限界: 電子文献の識別と著作物の識別. 第46回日本図書館情報学会研究大会発表要綱. 1998, p.47-50.

[11]Functional Requirements for Bibliographic Records: Final Report of IFLA Study Group on the Functional Requirements for Bibliographic Records. Munchen, K.G.Saur, 1998, 136p.

[12]谷口祥一. 三層構造モデル再論: IFLA『書誌的記録の機能要件(案)』との比較を通して. 図書館学会年報 Vol.43, No.1, 1997, p.1-18.